

令和 8年度 学 校 評 価 自 己 評 価 表

1 経営理念(ミッション・ビジョン)

I 教育に係るマネジメント	(1)人を育てる人が育つ学校 <教師> (2)児童の姿で教育を語る学校 <子供> (3)シンプル イズ ベストが定着した学校 <高い質>
II 組織に係るマネジメント	(1)ミドルリーダーが運営する企画委員会 (2)ミドルアップダウンによる組織運営・管理 (3)DCAPサイクルによるカリキュラムマネジメントの実施

2 めざす子供像

未知の課題に柔軟に考え、おもしろがって挑戦する「かしこい子」
失敗を恐れず、自分の思いを表現できる「さわやかな子」
最後まで粘り強くやりぬく「たくましい子」

「宝物」を探しに、レッツ・トライ!!

○自分から一歩踏み出そう！
(失敗してもいいじゃないか)
○ともに知恵を出し創り楽しもう！(いつでも協力・相談)
○地域に世界に発信！伝えるぞ!!
(もっと多くの人を仲間に)

3 経営目標・評価項目・評価・達成状況

評価基準 達成度＝達成値÷目標値×100 A(達成度100%以上) B(達成度100～80%) C(達成度80～60%) D(達成度60%未満)

	評価計画						自己評価					
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成のための手だて	評価指標	目標数値	7月	1月	達成度	評価	短期経営目標の達成状況	改善方策
							達成値	達成値				
確かな学力	授業力を向上し、基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り、振り返り、活用しようとする力を育てる。	国語科を中心とした研究を推進し、児童の主体的な学習の習得に向けた授業改善を図る	1	「考えたい」「伝えたい」と子どもが思えるような言語活動・発問を設定し、交流活動(伝え合い)の意図を明確にもって学習に取り入れる授業改善を通して、考えを伝え合い、学び合う子どもを育成する。	・国語の単元末・学期末(思考・判断・表現)の得点が期待平均点を上回る児童の割合 ・標準学力テスト(国語)の正答率が、全国比で昨年度に比較して数値が伸びている児童もしくは、全国比で110以上の正答率を獲得している児童の割合 ・学期末アンケート「友達同士で話をつなげることができた。」の項目で肯定的回答をする児童の割合	85% 85% 90%						
豊かな心	他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる。	道徳教育等、心が通い合う教育活動を充実する	2	・道徳科を中心に児童同士が考えを交流したり、関わり合ったりする活動に取り組む。 ・学級の帰りの会等で友達のいいところを発表をする時間をとるなど、児童がお互いに良さを認め合える活動を取り入れる。 ・全校児童が関わる活動を取り入れる。 ・ポジティブ行動支援に取り組み、児童のアウトプットする場を保証するとともに、肯定的フィードバックを積極的に行う。	「クラスの中にあなたの気持ちをわかってくれる人がいますか。」のアンケートで肯定的回答をする児童の割合 「自分にはよいところがある。」のアンケートで肯定的回答をする児童の割合	95% 85%						
健やかな体	目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育てる。	努力が結果となる体験を通して、児童の体力向上の意欲を高める	3	・児童が主体となって体力向上や健康維持を啓発する取組を企画、実行できるようマネジメント・評価していく。	50m走について、年度当初、1学期末、2学期、3学期に計測し、前の記録を更新した児童の割合	80%						
信頼される学校	児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る。	一人一人の思いに寄り添い、安心して伸び伸びと力が発揮でき、児童・保護者・教職員が「行きたい」「行かせたい」、教職員が「勤めたい」と思える学校を創る。	4	・学校行事や日々の活動等において「目標設定」「ふり返し」を行い、達成感や個の成長を実感できるようにする。 ・学期に1回、児童アンケートを実施するとともに、個別に話を聞くことで児童の悩みを把握する。また、教職員で情報の共有をする機会(月1回以上)を設ける。 ・働き方改革を進めるため、学期に一度は業務改善に係る熟議を行う。(風通しのよい職員室づくりに努める)	児童アンケート『通いたいと思いますか』、保護者アンケート「通わせてよかったと思う」、教職員アンケート「勤めたいと思いますか」の肯定的回答の割合	95%	児童 % 保護者 % 教職員 %	児童 % 保護者 % 教職員 %	児童 % 保護者 % 教職員 %			